

令和元年度 中部地方ダム等管理フォローアップ委員会 議事要旨

1. 日 時：令和元年12月11日（水）13：30～17：00
2. 場 所：TKP ガーデンシティ PREMIUM 名古屋新幹線口 バンケットホール7B
3. 出席者：藤田委員長、沖野委員、奥野委員、駒田委員、西條委員、辻本委員、中村委員、長谷川委員、松尾委員、山村委員
4. 議 事：
 - （1）ダム等の定期報告
 - 1）美和ダム
 - 2）小渋ダム
 - 3）阿木川ダム
 - 4）味噌川ダム
 - （2）平成30年年次報告（案）及び令和元年の出来事
 - （3）審議概要等の確認

(1) ダム等の定期報告について

1) 美和ダム 定期報告について

【総括】

これまでの調査結果の分析・評価をとりまとめた美和ダムの定期報告書(案)について、審議を行った。

その結果、美和ダムは治水・利水について適切な効果を発揮していること、環境への影響等についても、各種環境指標の状況が概ね安定していることから、美和ダムについては適切に管理運用されていることを確認した。

なお、委員会の審議に際し、各委員より出された主な意見等は、以下のとおり。

i) 防災操作

- ・規則に沿って実施しているルーチン的な操作の評価だけではなく、様々な観点で評価方法を検討すべきである。
- ・台風期の洪水のみでの評価となっているが、同年に梅雨期での操作を実施しているので台風期などの降雨特性が異なる洪水も含め総合的な評価を行ったほうがよい。

ii) 利水補給

- なし

iii) 堆 砂

- ・バイパストンネルの環境への影響について長期的な視点から今後調査を行っていくこと。

iv) 水 質

- ・Chl-aについては回転率だけでなく、リンの流入負荷量、水温、日射量なども関連するので、誤解のないようにまとめること。

v) 生 物

- ・鳥類のカワアイサ、カワウはダム湖内の魚類の生息数が増加すれば、両種の生息数も今後増加する可能性があるため、次回の河川水辺の国勢調査で確認すること。
- ・ダム直下の無水区間のツルヨシは一定量の流速と流量が必要なので生育域での流れの状況を確認しておくこと。

vi) 水源地域動態

- なし

- 定期報告書については、了承する。委員からの意見等は、提案(発言)の趣旨を踏まえ定期報告書に反映させること。

- (1) ダム等の定期報告について
2) 小渋ダム 定期報告について

【総括】

これまでの調査結果の分析・評価をとりまとめた小渋ダムの定期報告書(案)について、審議を行った。

その結果、小渋ダムは治水・利水について適切な効果を発揮していること、環境への影響等についても、各種環境指標の状況が概ね安定していることから、小渋ダムについては適切に管理運用されていることを確認した。

なお、委員会の審議に際し、各委員より出された主な意見等は、以下のとおり。

i) 防災操作

- なし

ii) 利水補給

- なし

iii) 堆 砂

- なし

iv) 水 質

- Chl-a については、回転率だけでなくリンの流入負荷量、水温、日射量なども関連するので、誤解のないようにまとめること。

v) 生 物

- 土砂バイパスの運用により下流河川の土砂堆積量や堆積箇所によって生物の生息・生育環境は変化するので長期的に下流河川の河床状況を把握していくことが必要である。
- 「ツツザキヤマジノギクの生育株数は、経年で減少傾向にあり、この減少傾向は流域全体に及んでいる」と記載しているが、天竜川本川の流域全体であることを明示すること。
- ツツジノヤマジノギクの減少は出水による土砂堆積を原因に挙げているが、一時的に減少しても長期的には土砂が流され動的平衡で維持されるものと考えられるので誤解のないようにまとめること。

vi) 水源地域動態

- なし

- 定期報告書については、了承する。委員からの意見等は、提案(発言)の趣旨を踏まえ定期報告書に反映させること。

(1) ダム等の定期報告について

3) 阿木川ダム 定期報告について

【総括】

これまでの調査結果の分析・評価をとりまとめた阿木川ダムの定期報告書(案)について、審議を行った。

その結果、阿木川ダムは治水・利水について適切な効果を発揮していること、環境への影響等についても、各種環境指標の状況が概ね安定していることから、阿木川ダムについては適切に管理運用されていることを確認した。

なお、委員会の審議に際し、各委員より出された主な意見等は、以下のとおり。

i) 防災操作

- なし

ii) 利水補給

- なし

iii) 堆砂

- なし

iv) 水 質

- ・水質保全設備について貯水池の富栄養化対策及び放流水水質維持の改善等対策の目的を明確にしたうえで評価すること。
- ・富栄養化対策(浅層曝気循環設備)における原因藻類の細胞数について、深度方向の密度変化も考慮したデータ整理に努めること。

v) 生 物

- ・稚アユ成長期(秋季～冬季)における摂食対象の動物プランクトンの把握に努めること。
- ・ブルーギルの増加による他魚種の影響について確認していくこと。
- ・陸上昆虫類等の評価で調査結果のばらつきの要因等について確認すること。
- ・水域ハビタットの経年変化について、大きな変化は見られないと評価されているが、淵の形状に変化がみられるため、要因を確認すること。

vi) 水源地域動態

- なし

- 定期報告書については、了承する。委員からの意見等は、提案(発言)の趣旨を踏まえ定期報告書に反映させること。

(1) ダム等の定期報告について

4) 味噌川ダム 定期報告について

【総括】

これまでの調査結果の分析・評価をとりまとめた味噌川ダムの定期報告書(案)について、審議を行った。

その結果、味噌川ダムは治水・利水について適切な効果を発揮していること、環境への影響等についても、各種環境指標の状況が概ね安定していることから、味噌川ダムについては適切に管理運用されていることを確認した。

なお、委員会の審議に際し、各委員より出された主な意見等は、以下のとおり。

i) 防災操作

- なし

ii) 利水補給

- なし

iii) 堆 砂

- なし

iv) 水 質

- なし

v) 生 物

- ウラジロモミ群落が増加しているが、原因は何か。植生区分を変更しているのであれば、根拠を示すべきである。
- カジカガエルの調査地点についての表示を統一すること。

vi) 水源地域動態

- 年間利用数が平成 15 年に比べ、半減している要因はどのようなものか。ダム施設の魅力を向上させるよう努力すべき。

- 定期報告書については、了承する。委員からの意見等は、提案(発言)の趣旨を踏まえ定期報告書に反映させること。